

中部大会速報

10 三重県 高田高校

舞台、演出に工夫

日常をリアルに再現

創作の脚本

生の高校生を劇を作り、上演したいという想いがあったから創作作品にした。テーマは「想像にお任せする」とした上で、高校生活の日常を描いた。

演出について

工夫した点は、高校生活の会話や人間関係をリアルに表現することだ。その為に演出(高原)は、キャスト自身に考えさせ、行動させた。その結果、上手く上演できた。

苦労した舞台装置

照明で染まりやすい色に

教室のパネルを塗り、学校で

試験錯誤をした。非常に苦労した点はパネルとパネルの接続であり、大道具を作り直すのに六ヶ月もかかるなど、非常に苦労した。

本番中には

本番中、大道具の椅子が動いてしまうハプニングがあり、焦った。また、キャストがお菓子を食べるシーンで少しむせたこともハプニングだ。

役作りのその思い

ミナミ役は、劇中に出てくるお菓子を大好きになるまで食べるなど、役になりきる



文化祭実行委員を決める、多数決の場面。

ために努力した。加えてメグミ役は、ミナミのことが大好きという役柄のため、暇なときはミナミ役と一緒に過ごした。結果、二人のリラックスした雰囲気を出すことができた。

本番を終えて、ミナミ役の佐藤は「あつという間違った。楽しく演じることができた」また、メグミ役の西村



Mと書かれた紙を見つけたメグミ。

は、「ケーキを食べてくれてよかった」と話した。

裏方の工夫

音響は、オープニングとエンディングでプリンセス・プリンセスの「M」をアレンジして使用する工夫をした。さらに音のタイミングをわざと遅くする、工夫をした。

最後に一言

見ていただき、本当に感

謝。創作脚本独特の、言葉にできない緊張感を受け取ってもらえたら嬉しい。

編集後記

舞台装置の大きさやリアルさに驚かされた。教室の扉や廊下などよく作り込まれていた。劇では高校生の日常に近く、共感する部分が多くあった。

非常にリアルさを求めた作品だったと感じた。

感想カードより

初めて高校演劇を見た。想像以上にリアルであり、その場にいますような雰囲気を感じた。高校生ならではの感情が伝わり、見ている側も楽しさや気まぐさを感じた。(匿名)

(担当)西谷、泉、堀田、中川

M

作品名

創作 Original